

こんにちは(#^.^#) 『ケアセンターなごみ』です。

今回は、白内障についてのお話をしたいと思います。

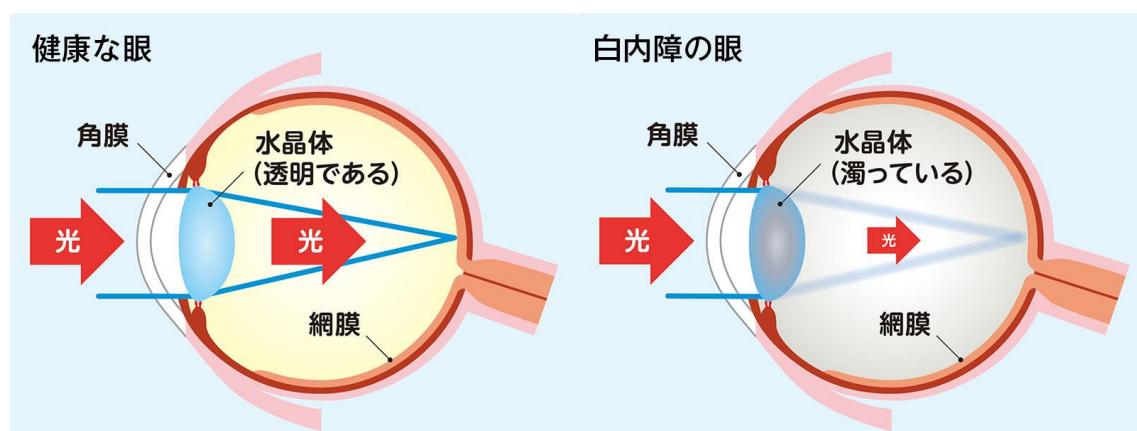
「白内障」は高齢者がかかる目の病気ということは、なんとなくはわかっているが、実際はどんな病気なのか…。

主な原因は「加齢」によるもので、80歳過ぎれば、ほぼ100%の人が発症する身近な病気です。

加齢に伴う白内障は、早期の自覚症状がほとんどありません。

50歳代で半分弱、60歳代では60～80%が発症しています。

高齢になれば視力も低下する為、転倒のリスクも高くなります。



【主な症状】

- ・目がかすむ、ぼやける
- ・光がまぶしい
- ・視力の低下
- ・物が二重に見える
- 等々

正常な見え方



白内障の見え方



まぶしく見える



かすんだり、ぼやけて見える

目が見えにくいと、その不便さは日常生活のあちこちに出てきます。

障害物があっても認識づらくぶつかる、目標や目印を見つけるのが難しい、道に迷うことがある、足元も見えづくなりつまづきや段差の踏み外し等が起こっています。

高齢者の事故は 8 割近くが住宅で起きています！



住み慣れた家の中に居れば安心、安全というわけでもないのです。

事故の原因は転倒・転落だけでも 5 割超え！

見えにくいことが原因で家の中でも転んでしまうのです。

自分自身や自分の家族はまだまだ大丈夫、とは思わずに

もしかしたら、見えづらくなっているかもしれない・・・

自分も見えづらくなるかもしれない、そう考え先回りした対策を取る事が事故の防止にもつながります。

他人事とは思わず、誰もがなる病気とも言えます。

40歳をすぎたら、自覚症状が無くても検査を受ける事が大切です。

